



仙台市科学館 蒲生調査レポート 速報版

No.100

2015.12.12

〒981-0903 仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館 事業係
TEL:022-276-2201 FAX:022-276-2204
<http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/>

再びつながった潟湖と七北田川

■潟湖からの水の流出

9月に砂が堆積し、七北田川とのつながりが遮断された蒲生干潟であるが、今回の調査で潟湖と七北田川が再びつながったことが確認された (Fig.1)。場所は、導流堤にもうけられた2つの通水部分の西側である (Fig.2)。Fig.1のように、干潟内の水位は明確に七北田川よりも高いことがわかる。調査前日の12月11日は仙台市で24.5mmの雨が降っている。降水によって潟湖内の水位が上がり堆積した砂が押し流された可能性が考えられる。



(Fig.1 潟湖から流出する水 導流堤の南側から撮影)

なお、雨水によって潟湖の水位が上昇したのであれば、塩分濃度の低下が考えられる。



(Fig.2 導流堤の北側から撮影 AがFig.1の部分。Bの低い部分からは水は流出していない)

■イソシジミの生息



(Fig.3 イソシジミの貝殻)

上記、潟湖からの水の流出により浸食された部分でイソシジミの貝殻が多数発見された (Fig.3)。貝殻は新鮮なもので、軟体部が残っているものも見られた (Fig.4)。イソシジミの水管はイシガレイの稚魚にとって重要な餌である。春から夏にかけて蒲生干潟で成長するイシガレイの餌となる生物は干潟内に生息していることが確認できた。



(Fig.4 軟体部が残るイソシジミ)